

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
渡辺 浪二			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
小ヶ谷 千穂		フェリス女学院大学 文学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
コミュニケーション専門ゼミIIB	FERa-090702-2	11人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査実習とはいうものの、調査設計に至るまでには、既存の測定指標および尺度に関する知識は欠かせない。特に、抑鬱感情や攻撃性、欲求不満感といったものには多くの指標が提案されている。それらの知識が十分でない状態で調査設計を行わせても、あまり意味がない。したがって、実習に先立って不十分な知識の穴を埋めるべく文献購読を行うことになるわけだが、そうなると実習のための時間がたりなくなってしまう。学生は、文献を読みこなしつつ、調査設計を行わなくてはならず、たいへんだと感じるが、現状のカリキュラムではいたしかたないことかとも思う。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

攻撃性におよぼす敵意感情と抑鬱感情

2. 調査の内容/概要：

他者軽視と自尊感情の高低から抽出される仮想的有能感を参考に4つのグループに分類をする。「全能型」「自尊型」「仮想型」「委縮型」の4つのカテゴリーに分類したのちに、それぞれのグループと攻撃的尺度、抑鬱尺度、意識的防衛尺度との関係を見た。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

母集団は青年期女子。標本集団は学生147名。有効回答147。回収率100%。教場によるアンケートであり、回答・回収はその場で行われたため。今年度は、調査内容が多岐にわたる設計となつたことによりアンケート実施場所が限られたため、特にサンプリングに関しては考慮しなかった。ただし、実習中、調査計画の立案においては、標本化理論に関して講義し、計画には盛り込まれている。

4. 主な調査項目：

(1)他者軽視尺度 (Hayamizu et al 2004) で作成された仮想的有能感尺度。(2)自尊感情尺度 (山本・松井・山城1982)。(3) Buss&Durkee (1957) のHostility Guilt Inventory (HGI) のうち66項目。(4)抑鬱尺度SDS (5)意識的防衛性質問用紙 (conscious Defensiveness Questionnaire CDQ 榎本・山崎2002)。(6)P-Fスタディ (Rosenzweig Picture Frustration Study 日本語版) 成人用。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査)の方法：

調査員によるアンケート調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2010年11月。調査地：神奈川県。調査員数11名。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入)：

147票。回収率100%。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

分散分析およびTukeyHSD法による多重比較。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

10. 報告書刊行の予定と概要：

未定。